



デサントグループ
CSRレポート2015

はじめに

デサントグループは、社会との持続的な相乗発展のために、CSRに関する考え方や取り組みについてステークホルダーの皆様にお伝えしご理解頂くことを目的として「デサントグループCSRレポート」と「Webサイト」を作成しています。

「Webサイト」は、CSR活動全般について網羅的に掲載し、検索性に配慮しています。

本書「デサントグループCSRレポート」は、自社で重要度が高いと判断した内容をISO26000を参照しご報告するとともに、より多くの皆様にお読みいただきたいテーマを特集ページとして取り上げています。

ステークホルダーの皆様との対話をより深めるために、特集ページでは、当事者や参加者の「Voice(声)」を大切に、楽しく読みやすいことを目指して作成しました。

本書が、読者であるステークホルダーの皆様にとって、デサントグループが果たすCSRへのご関心・ご理解の一助となれば幸いです。

▶企業理念

すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを

スポーツ本来の「体を動かす楽しさ」、「競い合う楽しさ」を提供することで一人一人のいきいきとしたライフスタイルの創造に貢献します

▶CSR方針

1. デサントグループは、企業理念に基づき、スポーツを通じて人々の身体と心を豊かにし、健全なライフスタイルの創造に貢献します。
2. デサントグループは、経済・社会及び環境との関わりの中で求められる期待に、事業活動を通じて応えることによって、社会とともに持続的な相乗発展を目指します。
3. デサントグループは、「デサント倫理綱領」に基づき、国内外において人権を尊重し、関連法令及び国際ルールを順守しつつ、高い倫理観と向上心を持って行動します。

▶デサントグループ CSRレポート 2015

目次

■ 社長インタビュー	2
■ 地域社会とのかかわり	
特集 1. 「すこやかキッズスポーツ塾」の取り組み	3
2. 東北元気アップ教室	5
■ お客様とのかかわり	
特集 SCロールプレイング大会	7
■ 従業員とのかかわり	9
■ 海外での取り組み	
デサントコリア株式会社の社会貢献活動	11
■ コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	12
■ サプライチェーンマネジメント	13
■ 環境保全への積極的な取り組み	14

報告の対象期間

原則として2014年4月から2015年3月までを対象期間としていますが、当該期間以前もしくは以後の活動内容も含まれています。



国連グローバル・コンパクトに署名

2015年3月11日、デサントは国際連合が提唱する、国連と企業の協力の枠組みである「国連グローバル・コンパクト(以下、UNGC)」に署名しました。

UNGCは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組みです。

2016年3月期をゴールとする中期経営計画「Compass 2015」の基本方針として「グローバル化の推進」を掲げ、CSRにおいてもグローバル化を目指している当社は、今回のUNGC署名を機に持続可能な地球社会の実現に貢献できるよう、より一層、積極的に活動してまいります。



Network Japan
WE SUPPORT



「デサントの考えるCSR」

私達の考えるCSRとは、変化する社会の要求に対して、事業を通じて果たすべき役割。

代表取締役社長

石本 雅敏

いしもと まさとし

▶デサントのCSR経営に関する考え方とは、どのようなものですか？

デサントの企業理念「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを」を実現するための活動が当社の企業としての社会的責任であり、社会との接点でもあります。事業を展開する国々と地域が拡大し、グループの売上高の56%を海外が占めるようになり(2015年3月期)、ますます海外でのお客様との接点が重要になってきています。こうした中でデサントは、企業理念・ガバナンス・組織体制のグローバル化を推進しています。2014年には外国人の取締役も選任し、経営にもグローバルな視点とスピーディーな姿勢を取り入れています。また、現場を離れてじっくりと経営課題について考える場として、取締役によるオフサイトミーティングも定期的開催し、広い視点で当社の経営について検討しています。

▶CSRのグローバル対応について教えてください。

中期経営計画「Compass 2015」の中では、「目指す姿」として『スポーツウェアの分野において世界のリーディングカンパニーとして認められている』を掲げています。事業の展開エリアの拡大により、さらに多くの国々や地域と社会的な関わりを持つこととなります。2015年3月には「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。その理念である「人権」「労働」「環境」「腐敗防

止」の4分野10原則を支持し、社会の良き一員として責任あるリーダーシップを発揮すると同時に、これから当社グループが一層のグローバル化を進めるうえで、基本となる行動指針として捉えていきます。

▶今後、目指していくCSR経営の方向性を説明してください。

環境保全の視点では、当社が製品を作る過程で、当然ながら有害物質を出さないことや環境に負荷をかけることが大切だと考えます。例えば染色工程での水を節約するため、インクジェットプリントなどの技術を使う、という視点です。また、近年のような異常気象下において、衣服内の環境を考慮したウェアを開発するなど、機能的な製品の提案を行っています。このように、当社がスポーツの世界で培ってきた技術を、スポーツ分野のみならず環境を軸とした観点でも活かしていくことができるかもしれません。

社会貢献活動の活動領域として、まずは当社のビジネス領域であるスポーツにフォーカスしています。特に子どもを対象にした活動に注力し、体を動かす楽しさを知ってもらう機会を増やすことと併せ、子どもたちの指導者を対象としたプログラムも考えていきたいと思えます。

2015年6月

地域社会とのかかわり

デサントは、スポーツを通じたイベント活動やキャリア教育により、未来を担う子どもたちや学生、地域住民の皆様の身体と心を豊かにし、健全なライフスタイルの創造に貢献しています。同時に、NPOとの連携および被災地の皆様への支援などにも、継続して取り組んでいます。

特集 1

一流アスリートとのスポーツ体験の機会を提供 「すこやかキッズスポーツ塾」の取り組み

▶すこやかキッズスポーツ塾とは？



「すこやかキッズスポーツ塾」は、「子どもたちがスポーツを好きになり、健康になってもらうこと」を目指して活動をしている、児童向けスポーツ体験型プログラムです。元オリンピック選手などトップアスリートを塾長に迎え、スポーツをする機会が減り体力・運動能力が低下傾向にある現代の児童に、レベルの高いスポーツ体験の機会を提供します。参加費は無料です。

▶アプローチ方法は2タイプ

多くの児童に参加してもらえるよう「1日スポーツ塾」、「学校訪問」という2タイプのアプローチを用意しました。「1日スポーツ塾」は、総合体育館など大型施設で複数の種目を同時に開催する集客型スポーツイベントです。「学校訪問」は地元の自治体と協力した出前授業で、ボディコントロール能力を発達させるリズム体操を行います。いずれもトップアスリートが講師を務めます。

1日スポーツ塾

- 集客型スポーツイベント
- 総合体育館などで実施
- 小学生対象。事前応募制。
- 複数種目を同時実施
- 講師はトップアスリート
- スポーツ教室のほかにも教育的プログラム「すこやかプログラム」も実施

学校訪問

- 小学校への訪問授業
- 地元自治体と協力して学校選定。1授業50人～300人程度
- ボディコントロール能力を発達させるリズム体操を実施
- 講師は元体操日本代表、田中光氏など

▶参加者29,000名という実績

2004年度に始まり、「すこやかキッズスポーツ塾」の前身となった「こどもすこやかスポーツ塾」を含め、2014年3月末現在で「1日スポーツ塾」「学校訪問」の双方に、およそ29,000名の児童たちが参加しました。実施地域は日本全国の政令指定都市が中心で、近年は地域振興に重点を置き、同じ都市で複数年にわたり開催する事例も増えています。



▶参加者のコメント

参加した全国の児童からは、「本当に楽しかった」「スポーツが好きになった」「また参加したい」など、嬉しいコメントが続々と届いています。同時に保護者の方々からは、本プログラムの教育的意義へのご理解に加え、これからも末永く継続して実施してほしいとのご要望を多くいただきました。



▲児童による記念フラッグ



▲全国の小学校から寄せられた児童からの感想文の一部

▶「すこやかキッズスポーツ塾」
「学校訪問」実施レポート：2014年10月に大阪市内の
市立小学校を訪問

一流の技が児童を魅了

2014年度の「学校訪問」は、1996年アトランタオリンピック体操日本代表の田中光さんを塾長に迎え、10月上旬より大阪市内の4校でスタートしました。各学校の要望に沿って、音楽に合わせたリズム運動やマット運動を含む指導を実施。倒立前転や後転倒立、側転連続、後方宙返りなど、マット運動の模範演技を盛り込みながら楽しいトークとともに進化した指導では、すぐ目の前で繰り広げられる迫力満点の技に、児童から大きな歓声と拍手が巻き起こっていました。



▲田中先生によるマット模範演技（長原小）



▲リズム体操指導（森之宮小）



▲マット運動指導（森之宮小）



▲指導後の挨拶（長原小）

▶関係者の「Voice」

塾長の田中 光さん、訪問した4校のうち2校の校長、大阪市の担当者が実施内容を語ります。

Professor



009

塾長
流通経済大学
社会学部 教授
田中 光氏

「独自プログラムの考案や、
実施エリアの拡大に期待」

体操は、教え方の難しさやケガの問題もあって、うまく指導できないという現場の声がありました。このため、参加した全員が目標を達成できるプログラムを作成したのです。これを参考に、児童に合った独自の指導プログラムを先生方に考案してもらったり、実施エリアも地方や郊外へ広がれば、嬉しいですね。将来はスポーツ塾のネット版をつくり、実施校をリンクして活動内容がすぐわかるようになるといいですね。

Teachers



010

実施小学校
大阪市立
森之宮小学校 校長
加藤 洋子氏

「キャリア教育の観点で、
夢の実現手段に気付かせたい」

子どもたちのキャリア教育という観点から、夢を叶えた人に会うことで、自分たちの夢を実現する手段や、夢に近づく仕事を知ることを理解してほしいとの考えで参加しました。開催内容については、低学年の児童が身体をほぐせるプログラムに満足しています。児童には体操教室に通う者もいるので、今後は、その子どもたちを実技に参加させながら、直接、講師とふれあえる機会を増やした進歩も希望します。



011

実施小学校
大阪市立
長原小学校 校長
濱本 芳次氏

「トップアスリートの指導は、
一生の思い出になる」

本校では体育授業の研究を進めており、多くの児童から、素晴らしい技能を持った選手に教わりたいという要望がありました。オリンピック出場経験があったり、輝かしい成績を残した選手は、児童にとって夢の存在なのです。このような選手の方々が、先生として直にスポーツの楽しさを教えてくれる機会は、一生の思い出になるでしょう。この活動を今後も継続し、多くの学校に広めていってください。

後援先

大阪市経済戦略局
スポーツ部スポーツ課
担当係長
大内 美江氏

「大阪市の主催事業と塾の方向性が一致し、後援を推進」

大阪市では、子どもたちの「夢（目標）」を育み、スポーツへの興味・関心を喚起する事業「トップアスリートによる『夢・授業』」を実施中で、その目的と、すこやかキッズスポーツ塾の内容が合致していることが後援を始めた理由です。

実施校の教員からは「各学年に合わせた指導で、スポーツへの興味・関心が強まった」「プロの技に感動した子どもたちに、あきらめない心を持続してほしい」、児童からは「バック転や宙返りなど、本物の技は凄い」「夢をあきらめない」「先生のようになるため、簡単なことから一所懸命、始めたい」などの感想がありました。

関西にはオリンピックなど世界大会に出場経験のある体操選手がいないため、たとえ数カ月おきであっても、実施校と回数を増やしてもらえると、ありがたいです。

特集
2

2014年度も「東北元気アップ教室」を継続し、健康増進を支援

2014年度は、原発事故の被災地域となった福島県双葉郡の浪江町・双葉町・大熊町の住民の方々が長期の避難生活を続ける、いわき市・二本松市において開催しました。

これまでと同様、地元の自治体・NPO団体およびデサントの社内ボランティアの協力体制のもと、前年までの実施でご好評を得た多彩なメニューに楽しく取り組んでいただけるよう、支援しました。

2014年

場所・日程・参加者数

福島県いわき市：なみえ交流館：4月26日(土)	参加者数：20名
福島県二本松市：二本松市市民交流センター：4月27日(日)	参加者数：23名
福島県いわき市：サポートセンター「ひだまり」：5月10日(土)	参加者数：30名
福島県いわき市：なみえ交流館：5月11日(日)	参加者数：21名
福島県いわき市：サポートセンター「ひだまり」：5月24日(土)	参加者数：23名
福島県二本松市：二本松市市民交流センター：5月25日(日)	参加者数：20名
福島県いわき市：いわき市生涯学習センター：10月4日(土)	参加者数：25名
福島県いわき市：いわき市生涯学習センター：10月18日(土)	参加者数：15名

協力

一般社団法人 ふくしま連携復興センター、みんなが復興の主役! みんぱく(3.11被災者を支援するいわき連絡協議会)、まちづくりNPOなみえ、浪江町、双葉町社会福祉協議会、双葉町健康福祉課、双葉町



▲身体への負担が少ないセーフティウォーキング講座



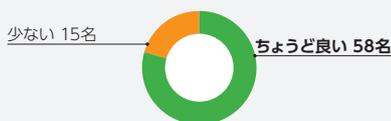
▲健康指導士 己抄呼先生の笑う体操



▲ストレッチ&筋力トレーニング

アンケートの結果 参加者数：92名 回答者数：73名 (79.3%)

問1：開催回数(2回)はどうでしたか？



問2：開催の時間(午前10:00~午後3:00計5時間)はどうでしたか？



問3：開催間隔(1回目から2回目まで2週間*)はどうでしたか？



問4：楽しかった・役に立ったプログラムがありましたか？(複数回答有)



問5：今後、健康づくりを目的とした教室があれば、また参加されますか？



問6：今回の教室参加して、健康への意識に変化はありましたか？



問7：今回の教室に参加してどうでしたか？



Voice

教室に参加された方の声(抜粋)

- 他の人と話したり、「やわらかさ」など体の比較がわかってよかった。
- 体に無理のない体操や講座がよかった。
- 私も含め参加者の顔が輝いていた。「笑う体操」のエンディングに、参加者の笑顔が映し出された時は、感動し涙がこぼれた。
- 効果を科学的にデータで説明し、説得力があった。
- 初めての体験だったので感激した。
- 普段あまり運動しないので、体と心のリフレッシュになった。
- 体を動かすことで、今までより快適な自分になったと思う。また来てくださって指導していただければ是非また、お目にかかりたい。
- 健康をさらに意識するようになった。
- 「笑う体操」が本当に楽しかった。
- 皆に会えて、とても楽しかった。

*浪江町二本松会場(二本松市市民交流センター)は4週間

▶関係者の「Voice」

Organizer



012 | デサントヘルスマネジメント研究所
 所長 八木 基之

「東北元気アップ教室」を振り返って：
 「被災地の方々と直に接することが最大の支援」

東日本大震災で被災した方々の健康増進の支援のため、デサントヘルスマネジメント研究所が中心となり、2012年9月から3年間にわたり「東北元気アップ教室」を実施してきました。長期の避難生活を強いられている方々に、生き生きとした健全な生活を取り戻していただく目的で、「体を動かす楽しさ」の提供に努めたのです。

地元の自治体やNPO団体の皆様のご協力もあって運営も順調に進み、参加された皆さんから「久しぶりに思い切り笑った」「震災後、初めて気持ちよく体を動かした」など、お喜びの声をたくさん頂戴して、逆に私たちが元気になることが何度もありました。

今回の課題のひとつに、子どもたちに向けたプログラムの一層の充実が挙げられます。その解決策として、将来を担う子どもたちに、元気で健やかに育てほしいとの願いを込め、今後は「すこやかキッズ スポーツ塾」の避難地域での実施を拡充していきます。

多くの方々が、未だ大変なご不便を感じながら避難生活を続けています。決して義務感からではなく、実際に現地に出向き、多くの人々とふれあい、共にストレッチや筋トレで汗を流し、直にお話を聞くことが、私たちにできる最大の支援であると思います。私たちスタッフ自身の人生観も変わるほどの経験をしました。



デサントグループでは、2015年度の社会貢献活動の方向性を「子どものスポーツ機会の充実」と定め、各種活動を集約していきます。「東北元気アップ教室」は2014年度をもって3カ年計画が終了し、所期の目的を達成したと考えています。2015年度は子どもたちを対象に「すこやかキッズスポーツ塾」を東北地区、とりわけ原発事故の避難地区で拡張して開催し、東北支援を継承します。

●「中期的な社会貢献活動の方向性」：子どもたちにスポーツを遊ぶ楽しさを提供



デサントグループの社会貢献活動の本旨は、「社会の課題を自社と共通する課題と捉え、その解決によってお互いに価値を創造していく。」ことです。

今の日本における社会課題を考えた場合、とりわけ共通する課題は少子化であり、これに並行して進行する子どものスポーツ離れです。

スポーツを遊ぶ楽しさは健全な心身を育て、ルールは倫理観を育てます。競い合うことの楽しさは仲間をつくり、勝つことの嬉しさはアスリートを育てます。やがて大人となりスポーツがライフスタイルに溶け込めば、家族と共にスポーツに接し、やがて生涯スポーツとして位置づけられます。社会はスポーツ環境を整えてスポーツ文化を生み出し、同時に市場を創造していきます。これらの原動力は子ども時代に育まれるのです。

2010年8月、文部科学省は今後10年間を見すえ、国家戦略としてスポーツ立国の実現を目指す「スポーツ立国戦略」を策定しました。これを基に2011年8月には「スポーツ基本法」が施行され、ここに定めた「スポーツ基本計画」で挙げている政策目標のひとつが「学校と地域における子どものスポーツ機会の充実」です。これから2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、子どもたちのスポーツ機会の拡充が進みます。

この大きな潮流を受け、デサントグループが取り組む社会貢献活動の中期的な方向性として、多くの子どもたちにスポーツを遊ぶ楽しさを提供することを中核に据えます。

お客様とのかかわり

デサントは、スポーツを愛する世界中のお客様をサポートするため、常に安全で高機能・高品質なスポーツウェアづくりに努めています。

特集

「第6回全国SCロールプレイング大会」を開催

▶全国約1,000名の販売職スタッフが競い合う

デサントには、セールスコーディネーター（SC）と呼ぶ、店頭での販売職スタッフが全国に約1,000名おり、お客様との大切な接点として活躍中です。顧客満足度のさらなる向上とSCのスキルアップを目指して、2009年から、「全国SCロールプレイング大会」の開催を始めました。これは、全国から自薦・他薦で選ばれたSCが各地域での予選で接客を披露し、審査を経て東京での決勝大会に臨む、という内容です。

▶全国から11名の精鋭が決勝に進出

2014年の大会は、『顧客につながる接客 ～「次もあなたから買いたい」と思ってもらえる接客～』をテーマに開催しました。直営店・百貨店・専門店など様々な業態の店舗で活躍する48名で地域予選を行い、それを通過した11名が1月19日の決勝大会に進みました。

東京オフィスに再現された売り場で、社員が扮したお客様に接するSCは、緊張の面持ちと共に日頃の接客の成果を披露。社内・社外の審査員が、「商品提案力」「会話力」「マナー」などの基準に沿って審査した結果、下記の4名が受賞しました。

受賞者（売り場／ブランド）

- | | | |
|------|--------|---------------------|
| ●優勝 | 佐藤 由美 | 横浜高島屋／『ランバン スポール』 |
| ●準優勝 | 小泉 由美 | アリーナショップ原宿店／『アリーナ』 |
| ●新人賞 | 山下 沙紀子 | 西武池袋本店／『ルコックスポルティフ』 |
| ●特別賞 | 中尾 紫乃 | 日本橋高島屋／『マンシングウェア』 |



▲決勝大会の会場に実際の売り場を再現



▲大会の冒頭で挨拶する代表取締役社長 石本雅敏

▲緊張感あふれる中でも笑顔は絶やさない接客



▲ほかのSCの接客から学ぶ参加者たち



▲決勝大会の参加者と代表取締役社長 石本雅敏（前列中央）および審査員 前列の右端は社外審査員の福島氏の氏（P.8参照）



▲受賞者へ賞状を授与し、日頃の努力を讃える

▶関係者の「Voice」

Sales Coordinators

013

大会参加者（優勝）

佐藤 由美

横浜高島屋「ランバン スポール」

「接客の奥深さを感じる」

優勝できたことは、素直にとっても嬉しいです。接客にあたっては、商品の紹介よりも、まずお客様とのコミュニケーションを第一に考えています。思い返せば、これまでの人生の半分は接客をやっていて、自分が人と話すのがとても好きなことを改めて認識しました。今回の大会出場にあたり、自分は心から接客が好きだとわかったことに加え、接客の奥深さも思い知りました。これからも、精進していきます。



014

大会参加者（新人賞）

山下 沙紀子

西武池袋本店「ルコックスポルティフ」

「全国から来たSCの皆さんの接客が勉強になる」

初めての大会出場で、とても緊張しましたが、自分を出すことができよかったです。決勝では関東地区だけではなく、全国の皆さんの接客を見ることができ、とても勉強になりました。今回の経験をひとつひとつ復習しながら、これからも頑張ります。色々なSCの方々の接客を間近に見て勉強できるので、機会があれば次回も参加したいです。



Judge



015

審査員

福島 りの氏

有限会社 悠紀帆久弥（ゆうきほくみ）代表取締役

アパレルなど小売店舗での人材育成・教育プログラム作成をサポート。教育コンサルタントとして「人と関わる」スタッフの育成を手掛けている。

「デサントの接客は、スポーツパーソンらしい真っ直ぐな対応」

本大会は、卸だけでなく、店頭での販売にも目を向ける目的で始まったと記憶しています。現在、本大会は安定期を迎えました。参加するSCの皆さんのレベルも上がり、これからはもっと「デサント色」を出した大会にしていきたいですね。他社の商品との差別化や健康を話題にしたり、歴代の受賞者たちと接客について話し合ったりすれば、もうひとつ高いレベルの大会になると期待されます。

デサントの接客は、アパレルに比べると貪欲さで負けるかもしれませんが、SCの方々の雰囲気がよく、スポーツパーソンらしい真っ直ぐな対応が特徴です。もう少し粘り強さをさせるとさらに良いと思います。

▶顧客満足度のさらなる向上を目指し、「全国優秀店舗表彰式」を開催

デサントでは、顧客満足度の一層の向上を目指して、「全国SCロールプレイング大会」のほかにも、SCの能力向上やモチベーションのアップを目的に「全国優秀店舗表彰式」を継続して開催中です。これは全国の約500店舗から、売上高や予算比、お客様へのアプローチ方法や店頭での仕掛け、チームワークなどの項目を基に優秀店舗を選出するもので、2014年までに27回を重ねています。

店頭でお客様と直に接する際には、デサントが扱う各ブランドをこよなく愛すること、そしてデサントという企業のファン、さらにはSCとしてお客様と直に接する自分自身のファンをたくさん作ることが求められます。デサントでは、今後もSCをはじめとする、社員のスキルアップに向けた数々の施策を展開していきます。

従業員とのかかわり

高度な専門知識の習得に向けた資格認定制度、女性のさらなる活躍を推進するセミナーなど、人材育成およびダイバーシティを中心に、新たな施策に取り組んでいます。

▶デサントの求める人材像

●チャレンジできる人

お客様起点を忘れずに、自ら高い目標を設定し、責任感を持ってやりきり、企業価値向上に貢献できる人。

●チェンジできる人

時代や環境の変化に敏感で、常に改革・改善意識を持ち、失敗を恐れず、スピード感を持って仕組みを創造もしくは変えて組織を強くできる人。

●コミュニケーションが図れる人

相手の考えや気持ちを理解し、尊重しながら自分の意思を分かりやすく伝えることができ、本質的な対話ができる人。

●グローバルに活躍できる人

グローバルな視点を大切にし、言語・異文化等への関心・学習意欲を持ち、好奇心・行動力・向上心があり、国内外問わずどこでも能力発揮できる人。

▶人材育成

デサントでは、会社の持続的な発展に必要な人材の育成を目的に、「視野を広げ、業務遂行能力、専門知識、思考能力を高める」ための教育・研修を実施しています。

●顧客サービスのさらなる向上を目指した人材育成の強化 「スポーツサイエンススペシャリスト (SSS)」の育成

2013年より実施している、スポーツ科学に関する基礎知識や各競技の動作特性、消費行動などを学ぶ社内資格制度「スポーツ・サイエンス・スペシャリスト」の認定者が総計150名になりました。

当社の強みである「モノ創り・商品開発」の強化のために、企画・開発の担当者はもちろん、お客様に直接接する営業や販売員が、商品や機能に対する知識を一層、深めることで営業活動や顧客サービスの向上にもつながっています。

●SSS (第3期) 研修カリキュラムby NESTA

NESTA (National Exercise & Sports Trainers Association: 全米エクササイズ&スポーツトレーナー協会) とは、カリフォルニアに本拠を置くフィットネス・トレーナーの資格認定機関です。NESTA JAPANによりデサント向けオリジナルプログラムをつくり2013年より研修を実施しており、2014年は12月に4日間、計32時間の講習を行いました。



▲講習風景: スポーツ科学を代表する運動生理学の基礎を習得



▲実際に当社の製品「ジェノーム」「クオノエベルト」を着用してその機能を体感



▲NESTA JAPANによるデサント向けスポーツ・サイエンス・スペシャリスト(SSS)のテキスト



▲資格を取得した社員に与えられるSSS認定証



▲SSS認定者が携行するカード

●グローバル化に対応した人材育成

デサントグループの中期経営計画「Compass 2015」に掲げた基本方針「5つのグローバル化の推進」に向けて、グローバルに活躍するための人材育成施策を重点ポイントに据えています。

具体的には、ビジネス英語とビジネススキルなどを身につけるための語学研修および語学学習支援、論理的思考を鍛えるためのマネジメントスクール研修などがあります。

主な実例：

- ・国際ビジネス研修生として、米国ワシントン大学にて英語でマーケティングを学ぶ
- ・海外ビジネス研修生として、上海・韓国・香港の海外関連会社にて、それぞれの国における実際のビジネス現場を体験

●営業異業種交流研修

エレクトロニクス製品の開発・販売を行うシャープエレクトロニクスマーケティング株式会社と、当社の営業担当者を集めた異業種交流研修を2回、実施しました。異業種との交流により、今後の営業活動につながるヒントを得ることが目的です。

2014年11月6日：東京	2015年2月18日：大阪
---------------	---------------

▶ダイバーシティ

競争力のある企業になるためには、全社員のレベルアップが必要不可欠です。性別、年齢を問わず、意欲を持って活躍できる人事制度、職場環境の構築、整備を推進していきます。

●女性の活躍を推進する

女性部下と上司の合同セミナーを開催

女性が活躍できる組織づくりには、管理職の意識・言動改革と女性の意識を変えるという、両面からのアプローチが重要です。女性部下と男性上司が、同じ研修を一緒に受けることで、相互理解を深め、共に多くの気づきを得ました。

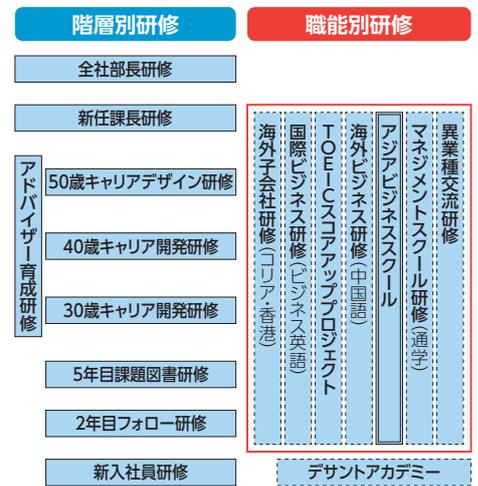
●障がい者雇用の促進

デサントでは、障がい者と健常者が分け隔てなく働ける職場環境づくりを目指しています。法定障がい者雇用率は、2014年度は1.3%にとどまりましたが、さらなる雇用の拡大を達成できるよう、引き続き働きやすい職場づくりに努めています。

●シニア人材の活用

デサントでは、定年退職者に対する再雇用制度の充実を図るなど、シニア人材が貴重な戦力として働き続けられるようサポートを行っています。

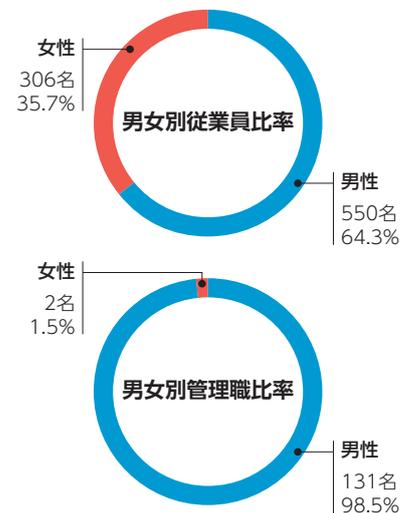
教育研修体系図



 対象者全員	 選抜型
 重点ポイント	 公募型

従業員構成比率

(2015年3月末現在)



海外での取り組み

デサント코리아株式会社の社会貢献活動

▶デサントスポーツ財団 (DESCENTE SPORTS FOUNDATION)の活動

●加平ムーブベースボールパーク(GAPYEONG MOVE BASEBALL PARK)建設をサポート

デサント코리아が2013年に設立した「デサントスポーツ財団」は、体育インフラを拡充してスポーツの大衆化を図り、地域スポーツの発展に寄与しています。2014年には、京畿道加平郡(キョンギドウカピョングン)の1万㎡(3,030坪)の敷地に広がる野球場1面、駐車場などの建設をサポートしました。加平郡は敷地提供と施設建設に必要な許認可手続きなどの行政支援を引き受け、財団は施設費全額を負担しました。完成後は、財団は施設を加平郡に寄付して、運営は加平郡が行っています。



▲加平ムーブベースボールパーク

●ソウルの中学校で朝の運動活性化プログラム「Move Sport」を実施

ソウル特別市教育庁は2014年5月より、ソウル市教育庁管内50校の中学生を対象にデサントスポーツ財団の支援を受けて、朝の運動活性化プログラム「Move Sport」を実施しています。「Move Sport」プログラムは、中学生の特性と成長段階を考慮したカスタマイズ運動で、学生が身体活動に新しさと楽しさを感じられるよう、ゲーム形式のトレーニングコースを設定して、活発な身体活動で学習態度を向上させ、「協同・心配・分かち合い・韌性(粘り強さ)」を高めるように設計されています。



▶デサント코리아の活動

●「SAVE THE PENGUIN」キャンペーン

2009年より国連環境計画(UNEP)の韓国委員会とのパートナーシップで、地球温暖化で生息地が減少している南極のペンギン保護に向けた「SAVE THE PENGUIN」キャンペーンを展開しています。6年目を迎えた2014年もキャンペーンシャツの利益の一部をUNEPに寄付して、様々な活動を展開しました。



▲漫画家の「キアン84」はウェブでキャンペーンを展開



▲デサント코리아の社員もキャンペーンに参加



▲人気ウェブ漫画家「キアン84」とデサント코리아所属のスポーツ選手がコラボレーションしたポスターを作成

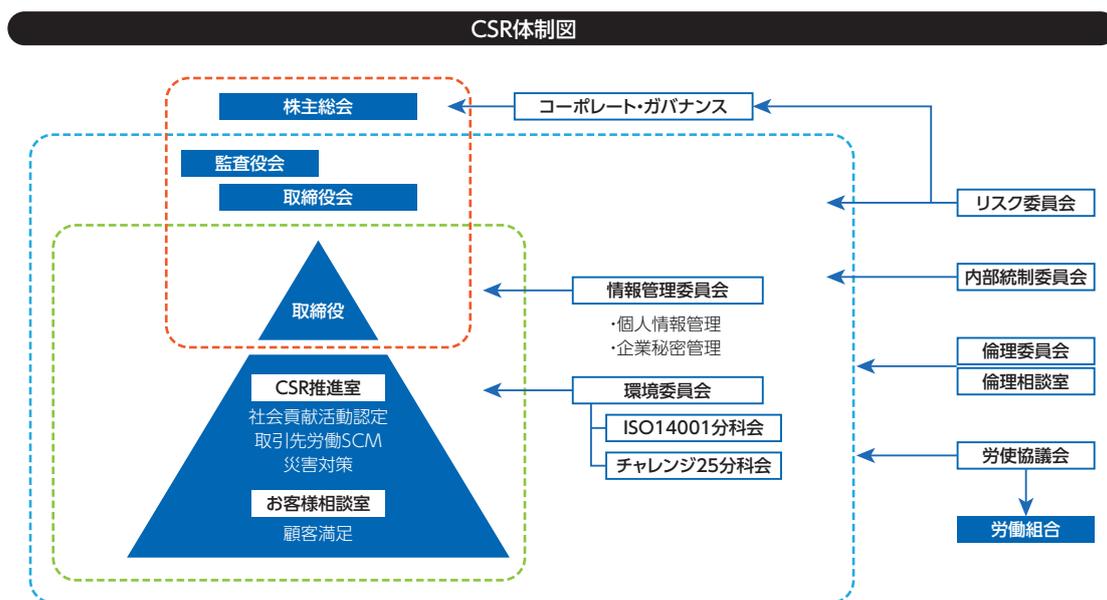
コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

ステークホルダーの皆様の信頼にお応えするために、「コーポレート・ガバナンス」「内部統制」の体制を構築し、企業の持続性の維持と企業価値の向上を目指すための取り組みを、相互に関連を持たせながら進めています。

▶コーポレート・ガバナンス

「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを」—この企業理念に則り、法と企業倫理に従い、誠実で公正かつ透明に事業活動を展開することが、企業の社会的責任であると認識し、コーポレート・ガバナンスの充実にに向けた取り組みを通じて企業価値を継続的に高めることを、経営上の最も重要な課題のひとつとして位置付けています。

その実現のために「デサント倫理綱領」を定め、株主の皆様やお客様をはじめ、お取引先、地域社会、従業員など様々なステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、株主総会、取締役会、監査役会などの法律上の機能に加えて、様々な手段を講じてコーポレート・ガバナンスの充実を図っています。



▶コンプライアンス

企業活動において根本となる姿勢を「デサント倫理綱領」に定める一方で、社員一人ひとりが、働く上で指針とすべき基準を「デサント行動基準」として定めています。これらの順守を推進するために倫理委員会を設置し、健全で品格に富む企業風土の醸成に努めています。また、職制を通じた解決が難しい問題、あるいはほかの社員の倫理に反する行動などの相談に対処するため、「デサント倫理相談室」を設置しています。

2014年度 倫理委員会活動

開催 : 5月、6月、8月、9月、1月、2月、3月
主な内容 : 各部署の倫理的問題に対するルールづくりと全社研修の立案
4月 : 経営向けコンプライアンス研修を実施
11月 : 全社コンプライアンス研修を実施
以上に加え、販売員コンプライアンス研修を適時開催

▶リスク管理

当社に重大な影響を与える事態の発生防止と万一の発生時の損害・影響の最小化、ならびに事業の継続性および業務の適正性の確保を目的に、「リスク管理規程」「リスク管理運用規則」を定めています。これらに則り、リスク委員会ではリスク全般を可視化し、予防と発生時の対策の整備を行い、対策の実施状況に対する担当取締役の監視とレビューの後、取締役会に報告します。

2014年度における監視リスク対象は48項目あり、このうち4項目のリスクが顕在化し、対策と改善を実施しました。

▶情報管理

「企業秘密管理規程」「企業秘密管理基準」制定するとともに、内容をわかりやすくした「企業秘密ガイドブック」を全管理職に説明のうえ、管理・徹底を促進しました。また、デサントが保有する個人情報の適正な保護を実現することを目的として「個人情報保護規程」「個人情報保護規則」に方針を定めています。毎年、一斉に「全社の個人情報棚卸し」を実施することで、個人情報の属性・件数・管理者・保管状態などを把握します。

2014年度における機密情報および個人情報の漏洩はありませんでした。

サプライチェーンマネジメント

デサントは、サプライヤーの皆様と公正なパートナーシップを築き、人権や労働条件の改善、環境保全に協力し、共に発展していきたいと考えます。そのために、すべての仕入先と「デサント・サプライヤーCoC（取引行動規範）」の誓約を交わし、また工場のCSR監査も実施しています。

▶2014年度 第三者機関によるCSR監査結果

2014年度は16工場に対しCSR監査を実施しました。指摘された項目に関して仕入先および工場と連携して、是正計画を練って改善に取り組みました。

監査項目

1. 児童および未成年労働、2. 強制労働、3. 安全衛生、4. 結社の自由、5. 差別、6. 懲戒慣行、7. 労働時間、8. 賃金、9. 環境

国別実施工場

中国12／ベトナム1／インドネシア3

アイテム別の不適合比率

生産アイテム	2014年度監査実施工場数	不適合が全項目の10%未満	不適合が全項目の10%以上	不適合が全項目の20%以上
ウェア	14	5	7	2
シューズ	1	0	1	0
アクセサリ	1	0	1	0
計	16	5	9	2

▶2010～2014年度累計

国別実施工場

中国51／ベトナム12／インドネシア5／ミャンマー5／タイ2

アイテム別の不適合比率

生産アイテム	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	不適合が全項目の10%未満	不適合が全項目の10～19%	不適合が全項目の20%以上
ウェア	2	11	19	11	14	28	19	10
シューズ	0	1	2	4	1	2	3	3
アクセサリ	0	0	5	4	1	6	4	0
計	2	12	26	19	16	36	26	13



▲縫製工場の生地裁断作業での安全手袋の着用を徹底

●デサントサプライヤーCoC(取引行動規範)

<http://www.descente.co.jp/company/csr/post0143.html>

当社の取引行動規範について、世界スポーツ用品工業連盟 (WFSGI) の行動規範に基づき次の内容で決めました。

1. 法律の遵守

2. 労働条件

- ①強制労働
- ②差別
- ③組織及び団体交渉の自由
- ④賃金
- ⑤労働時間
- ⑥権利と休暇
- ⑦児童労働
- ⑧健康と安全
- ⑨嫌がらせあるいは虐待

3. 環境

4. 地域社会との係わり合い

5. 企業内の独自の規範

6. 証明

7. 遵守



▲現地消防法に基づく避難誘導経路の確保



▲工場従業員の意見を聞くためのご意見箱の設置

環境への積極的な取り組み

デサントは、環境経営の指針として「デサント環境基本理念」「デサント環境方針」を定め、取締役を中心に構成される「環境委員会」を設置しています。環境委員会のもとには環境保全活動を推進するためにISO14001分科会とチャレンジ25分科会を置き、環境負荷・環境リスクを低減するとともに、それらの発生を予防するための行動を積極的・継続的に行っています。

▶環境基本理念と環境方針

「デサント環境基本理念」

デサントは、地球環境保全が最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で積極的・継続的に環境保全に配慮して行動する。

「デサント環境方針」

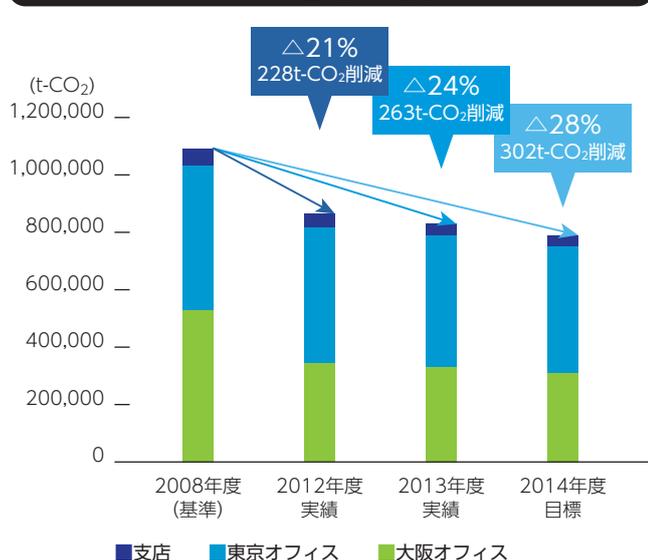
デサント環境基本理念に基づき、環境保全活動を推進し、環境負荷・環境リスクを低減し、その発生を予防するための行動を積極的・継続的に行う為に、下記の事項を定める。

1. 環境保全活動を推進させるため、「環境委員会」を設置する。
2. 環境関連の法律・規制・協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に、全ての領域で取り組む。
4. 事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定して全員で取り組み、その結果を見直して継続的改善・向上を図る。
5. 環境負荷低減型の商品開発、商品づくりを行う。
6. 環境監査を実施し、環境管理の維持向上に努める。
7. 環境教育を実施し、全従業員の環境方針の理解と、環境に関する意識向上を図る。
8. 環境基本理念、環境方針及び環境保全の実施状況については、必要に応じて公開する。

▶CO₂排出量の削減目標を達成

2014年度は、基準年度（2008年度）から28%削減し、目標（25%）をクリアしました。排出量は、基準年度の1,092t-CO₂から790t-CO₂に減少し、302t-CO₂の削減を達成しました。

CO₂排出量の推移



2014年度 国内事業所別CO₂排出量

単位：t-CO₂

事業所名	実績
大阪オフィス	309.6
東京オフィス	443
札幌支店	23.4
仙台営業所	5.6
名古屋支店	0.7
広島営業所	2.2
福岡支店	5.9
全社計	790.4

基準年度からの削減量の内訳

単位：t-CO₂

国内事業所の合計	2008年度からの削減量
電気	△349.7
ガス	50.4
水道	△1.7
ゴミ	△0.9
計	△301.9

▶環境保全取り組み事例

西都工場の太陽光発電システムが本格稼働

デサントアパレル株式会社 西都工場に設置した太陽光発電システムが2014年3月に稼働してから、一年が経過しました。この一年間に発電した電気量は、61,900kWh（計画比106%）。これは、西都工場一年間に消費する総電力の約15%に当たります。

廃棄繊維をリサイクルし軽量土壌として再生化

デサントアパレルの各工場から出る裁断端切れや廃番生地を回収し、植物栽培用の軽量土壌に再生する取り組みに参加しています。2014年度は、総量で7トン再生土壌化しました。



▲西都工場の敷地内に設置された太陽光パネル



▲当社工場の裁断端切れを再生した軽量土壌のプランター

DESCENTE



コーポレートシンボルマークの由来

DESCENTEとは、フランス語で「滑降」の意味。

スピリットマークは、スキーの基本技術である直滑降、斜滑降、横滑りを表現しています。

つねに最もすぐれたものに目を向け、時代の要求を先取りし、積極的に製品化していく果敢なデサントスピリットのシンボルです。

本レポートに関するお問い合わせ

株式会社デサント CSR推進室

TEL:06-6774-0327/FAX:06-6774-2605

当社CSRサイト

<http://www.descente.co.jp/company/csr/>